

千葉市議会議員（中央区選出）

なでしこ力!!

# 三井みわこ

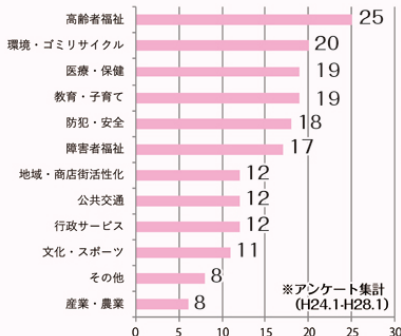
## 議会報告



### 平成28年第4回定例会市議会一般質問



私は、これからも福祉の視点、女性の視点を通して、大人も子供も、高齢者も障がい者も、そして誰もが「安心して暮らせるまち」づくりを目指します。また、次世代を担う若者が夢を持って働き、いきいきと暮らせる豊かな街へ、千葉市を中央区から変えて参ります。さて、平成28年第4回定例会市議会が、去る11月25日から12月14日にかけて開催されました。今回は、産後ケアと海浜病院について一般質問致しました。



市民の皆様から頂いた、市政に関するご意見のアンケート結果がまとまりましたので、ご報告致します。高齢化に対応する為、地域包括ケア体制の整備が進んでいますが、介護以外の生活支援（買物や移動手段）等の高齢者福祉に関するご意見、また、子育て支援にも、高齢者の経験を活かして、子どもルーム等で積極的に関わって頂くなど、ご提案頂きました。その他、中心市街地の活性化は、市民の皆様のご関心も高く、今後の街づくりの観点からも、頂きましたご意見を参考に、取り組んで参ります。その他、貴重なご意見を頂き、ありがとうございます。

市政に望むことについてのアンケート

●千葉都市モノレールの今後の市営の経営支援について  
 会社再建時の設備更新計画は、設備更新費の増加分をモノレール会社独自で吸収することは困難であることから、開業28年が経過し今後増大する設備更新費用のうち、安全な運行のため早急に対応する必要がある車両更新に対する費用及び、車両基地内の耐震補強の費用への補助を、安定した会社経営に向け、更なる収入確保や経費節減など、あらゆる手段について会社と検討を進めたいと考えています。更にモノレール駅周辺の土地利用や開発のあり方など、モノレール沿線の人口増加策について検討を行います。

●待機児童解消に向けた対策について  
 幼稚園の認定こども園移行や保育需要の高い地域で新たな認可保育所の整備を進めているところであり、平成29年4月開設予定の施設数は、現時点で46、これによる定員の増加数は1,018人の予定です。全区に配置している子育て支援コンシェルジュや職員によるきめ細かな情報提供・あっせんを通じて、できるだけ多くの方が保育施設を利用できるよう努めます。

### 平成29年度 市政運営及び予算編成に関する要望書



97万市民誰もが真に「夢と希望を育み、生涯を安心して託している」郷土千葉市の未来を築き上げるため、誠意・情熱をもって市政運営および来年度予算に反映し、市民の付託に応えるよう熊谷市長に強く要望させていただきました。

- 総務局**
  - 市の災害対応力強化に向け、ハード面については、将来的に危機管理センター構築に向けた千葉市総合防災情報システムの設計及び順次導入を図ること。ソフト面については、自主防災組織・避難所運営委員会を設置し、全ての市民をカバーできる体制づくりを行うこと。
- 市民局**
  - 市民協働について、地域運営委員会・NPO活動推進・自主防災組織など、補助の仕組みづくりを積極的に行うこと。
  - LGBTについては、職員・市民に対し理解を深めるためのソフト事業の取り組みを積極的に行うこと。
- 建設局**
  - 道路の維持管理について、施設の老朽化対策を進めるとともに、歩道のバリアフリー化や交通安全対策をしっかりと講ずること。
- 環境局**
  - 航空機騒音問題について、国に対し、あらゆる機会を捉えて、抜本的な騒音軽減策を講ずるよう求めていくこと。
- 経済農政局**
  - 中小企業の活性化に向けた支援を積極的に行うとともに、起業家支援として販路拡大・雇用の創出など施策を講ずること。
- 総合政策局**
  - 都市アイデンティティ構築・特区事業推進を積極的に行い、千葉市のブランド力を高めること。
  - 2020東京オリンピック・パラリンピックについて、キャンプ地誘致の推進、国際大会基準の施設整備の検討、都市ボランティアの育成と、開催地となる本市を世界的にPRできる環境・体制づくりを積極的に行うこと。
- 財務局**
  - 財政健全化に向けた取り組みを着実に進めるとともに、未来への投資バランスも意識した財政運営を行うこと。
  - 新庁舎建て替えについては、財政的な負担を十分に配慮し、職員の職務効率化と市民生活の中心的存在となる機能を有する庁舎となるようにすること。
- こども未来局**
  - 再度の待機児童ゼロ達成に向け、積極的に取り組むとともに、幼稚園・保育園への支援拡大、更に質の高い保育の確保に向けて施策を講ずること。
  - 子ども貧困対策を、本市の実態に合わせた具体的な施策を講ずること。
- 保健福祉局**
  - 地域包括ケアシステムについて、全庁的な推進本部の設置に取り組むとともに、全区でのネットワーク構築に向けた体制作りを行うこと。
- 消防局**
  - 各種災害に対応できる職員の育成と地域と連携した組織体制の強化に努めること。
- 教育委員会**
  - 学校トイレの洋式・ドライ化を計画的に進めるとともに、老朽化した施設の大規模修繕をできるだけ早期に取り組み、更に、普通教室のエアコン設置についても、検討を進めること。
  - 加曽利貝塚の特別史跡化に向けて、博物館・駐車場等の環境再整備を行うとともに、市民の機運を高める取り組みを積極的に行うこと。
- 都市局**
  - 都市モノレールの経営効率を高め黒字化を確保しつつ、老朽化した設備の更新費の確保に向けた取り組みを行うこと。
  - 稲毛海浜公園・マリスタジアム・動物公園等の更なる活用と、海辺のランドデザインにおける事業推進に努めること。
- 病院局**
  - 両市立病院の経営改善を行うとともに、今後のあり方、更には統合も踏まえた検討を行うこと。
  - 安定的・継続的な確保のため、更に人材確保を強化すること。

### 三井みわこ プロフィール

1971年：生まれ 千葉市中央区登戸在住  
 2002年：NPO法人ハートケアゆーあい（障がい者の施設）設立  
 2003年：聖徳大学大学院 児童学研究所 修士課程修了  
 2006年：NPO法人政策塾「新塾」（熊谷市長と同期）卒業  
 千葉県教育戦略ビジョン策定作業委員会委員  
 社会福祉法人「白雪会」の理事に就任、軽費老人ホーム「ほんくらぶ」の運営に携わる  
 2008年：ちばCO2CO2ダイエット推進 / 県民会議 委員  
 2010年：千葉市「新市民計画策定のための市民ワークショップ」委員  
 2011年：千葉市議会議員選挙 初当選  
 2013年：都市建設委員会副委員長  
 2015年：千葉市議会議員選挙 2期目当選

ご意見・ご要望がありましたら、右記の連絡先までよろしく申し上げます。

E-mail : mm@mitsui-miwako.com  
 Twitter ID : 三井美和香  
 発行 : 三井 美和香  
 TEL : 043-216-5432  
 FAX : 043-216-5433  
 千葉市中央区登戸 1-11-13-203

三井みわこ で検索!

※この市議会便りは、二つ折りにして、保管していただくことができます。



# 産後ケア・海浜病院の現状について



## 一問一答

母子保健や育児を取り巻く環境の変化、さらには晩婚化や未婚率の上昇といった社会状況の変化も踏まえつつ、本市の妊娠・出産にかかわる施策について質問します。

### 産後ケアについて

**Q** 地域における切れ目のない妊娠・出産支援について、具体的にはどのような取り組みをされているのでしょうか。

**A** 「母親・父親学級」「土日開催の両親学級」を開催し、その他にも、希望する中学校の生徒対象に「思春期保健対策事業」を実施しており、その中で妊娠の成り立ち・経過、出産についても取り上げており、更には、成人式などにおいて妊娠・出産には適齢期があることや妊娠・出産に悩んだ時の相談先を記載したチラシの

を支えるという点で一定の評価はできます。

しかしながら、使い勝手の悪さが利用されている方々から聞こえるのも事実です。利用されている方々の意見を参考に、柔軟に制度運営を行い、これまでに以上に、エンジェルヘルパーの身を充実させて頂きたいと思

また、女性の出産年齢の高齢化によって、その子の祖父母も高齢化している等、出産後、家族等から十分な育児援助が受けられない家庭に対して、母子への心身のケアや育児のサポートは大変重要となります。特に、夜間の育児支援をしてくれる家族が身近にないなど、出産直後の支援不足が顕著になっている場合、身近な地域に宿泊型の産後ケア施設が存在することは、母親や家族の心身の負担軽減、育児に対する母親の不安解消等に大きく寄与するものと期待されます。

宿泊型産後ケア事業は、実施している市町村により利用料金は様々であり、また、市町村の利用料金補助の状況も異なっているという課題もあります。しかしながら、本市が実施された産後ケアに関するアンケートの結果を踏まえ、さらには厚労省の先進事例や既に実施している自治体を参考にしつつ、早急に当該事業に取り組みますよう、併せてお願いします。

### 一般質問にて

## 海浜病院の現状について

配布をしております。

### 全ての妊婦への支援

**Q** 本市では、妊婦に対する健康面のサポート体制、さらには産後の周辺環境や情緒面での支援について、どのように取り組まれていますか。

**A** 母子健康手帳交付の際に全ての妊婦に対して、専門職が面接し、妊娠・出産に係る不安や負担等を確認し、必要と思われる支援についであります。

その後専門職が、生後4か月までに全家庭を訪問し、乳児の発育状況及び養育環境を確認するとともに、保護者の心身の状況等について聴取しております。また、医療機関、助産院等と連携し、各施設からの情報を基に入院中の面接や退院後の家庭訪問を実施している他、4か月、1歳6か月及び3歳児健診の際に乳幼児の発育状況等を確認しております。

### 海浜病院について

#### 小児・周産期医療への取り組み

**Q** 「千葉市立病院改革プラン(第3期)」でも、海浜病院は、がん・小児・周産期など政策的医療にも積極的に取り組むとされており、実際、今年度から夜間小児二次救急搬送の全日受け入れを行うなど、小児医療に積極的に対応されておりますが、今後の小児・周産期医療への取り組みについては、どのような考えか。

**A** 小児医療においては、本年6月からは夜間小児二次救急搬送の全日受け入れを開始し、また11月からは、病児の療養環境の向上を目指して、病棟保育士を配置しました。

また、周産期医療は、市内産科救急の中核を担い、早産や低出生体重児が予測される場合などのハイリスク分娩に対する専門的な二次医療を行っており、増加する入院需要に対応するため、本年6月に一般病床の3床をNICUに転換し、15床を増床しました。

今後も社会環境の変化に柔軟に対応し、安心して子どもを産み育てられる小児・周産期医療を目指して参りたいと考えております。

### 母子の孤立化防止への取り組み

**Q** 出産後に家族からの育児や家事の援助を受けられない孤立した母子のケースもあつたと思われまふ。そのような母子に対し、本市はどのような支援を実施してきましたか。

**A** 生後4か月までに全ての家庭を訪問する乳幼児家庭全戸訪問事業により母子の孤立化防止に努めております。

これに加えて、妊娠中や出産後間もない時期に昼間、家事や育児の手伝いをしてくれる人がいないご家庭等にヘルパーを派遣する「エンジェルヘルパー事業」、保育所等への送迎や一時的な預かりなどの子育て援助を行う「うちばりファミリーサポート・センター事業」等を実施しております。

### 複合型支援体制導入に向けて

**Q** 宿泊型あるいはデイケア型の産後ケア事業は、厚労省からも先駆的な自治体の取り組み事例として示されており、但し、当局は当該事業をどのように認識されておりますか。

### 老朽化対策について

**Q** 市民に安全・安心な医療サービスを提供する使命を持つ海浜病院における建物・医療設備の機能維持や老朽化対策は、どのような考えか。

**A** 海浜病院の老朽化は深刻であり、計画的に、建物の修繕や医療機器の更新等を実施しております。

今後、計画的に建物の補修や修繕を行うとともに医療機器の更新を行い、施設や診療機能の維持に努めて参ります。

### 看護人材確保に向けた取組と成果

**Q** 看護人材の確保は、市立病院だけに留まらず、全国的な課題であり、本市では千葉市立病院看護士等修学資金貸与制度により、学校卒業後、市立病院に就職する意思のある学生に修学資金を貸与し、もって市立病院の人材確保を図っているとのことですが、本制度による就職率をはじめとした、これまでの実績について

**A** 本事業は平成26年度から貸与を開始したもので、貸与者数は初年度が52人、平成27年度は新規が51人、継続が30人、平成28年度は新規が24人、継続が57人

切れ目ない支援として宿泊型の産後ケア事業も必要と思われまふが、当局はどのように考えていらっしゃいますか。

**A** 4か月児健診を受診した保護者を対象に、産後ケアに関するアンケート調査を実施いたしました。

この結果、産後に希望するサービスとして4割を超える方が「産婦自身の休息」「授乳方法・乳房(にゅうぼう)ケアの相談」希望するといふ結果を得ております。また、助産師による新生児訪問においても授乳方法の相談や夜間の授乳による不眠の悩み等が多く寄せられており、これらに対応するサービスの必要性が高いものと認識しております。

### 意見・要望

妊娠中や出産後に体調が悪く、家事や育児が困難な孤立化している妊産婦に対して、本市が取り組んでいるエンジェルヘルパーは、より身近な場で妊産婦

となつております。本市における採用状況ですが、平成27年3月卒業の貸与者22人のうち、採用者数は21人で、就職率は95.5%、平成28年3月卒業の貸与者24人のうち、採用者数は23人で、就職率は95.8%となつております。

### 意見・要望

働く環境を良くすることが、従事者の過度な負担を低減すると共に、貴重な人材の定着に繋がりが、結果として就職希望者にも選ばれる病院になるということ、この点を是非、当局はご認識いただきたいと思ひます。

さらに、海浜病院が周産期母子医療センターや小児医療の積極的な対応を図られているなら猶このこと、特に、24時間体制で気の抜けない新生児病棟の夜勤にあたる看護士等の負担は、かなり大きいものとなつておりますので、適切な対応をご検討ください。